

音楽的映画としての「ラヴ・ミ・トゥナイト」

寺田寅彦

青空文庫

この音楽的映画の序曲は「パリのめざめ」の表題樂で始まる。

まず夜明けのセーヌの川岸が現われる。人通りはなく朝霧にぬれたベンチが横たわり、遠くにノートルダームの双生塔がぼんやり見える。眠りのまださめぬ裏町へだれか一人自転車を乗り込んで来て、舗道の上になんだか棒のようなものを投げ出す。その音で長い一夜の沈黙が破られる。この音からつるはしのようなもので薪^{まき}を割る男が呼び出される。軒下に眠るルンペ^ンのいびきの音が伴奏を始める。家の裏戸が明いて早起きのおかみさんが掃除^{そそうじ}を始める、その箒^{ほうき}の音がこれに和する。この三つの音が次第に調子^{あさげ}を早める。高角度に写された煙突から朝餉の煙がもくもくと上がる。

り始めると、あちらこちらの窓が明いて、晴れやかな娘の顔なども見える。屋上ではせんたく物を朝風に翻すおかみさんたちの群れもある。これらの画像の連続の間に、町の雜音の音楽はアクセランドー、クレツセンドーで進行して行つて、かくして一人の巨人としての「パリ」が目をさましてあくびをする。これだけの序曲が終わると同時に第一幕モーリス住み家の場が映し出されるのである。この序曲はかなりおもしろく見られ聞かれる。試みに俳諧連句にしてみると

朝霧やパリは眠りのまださめず

河岸かしのベンチのぬれてやや寒

有明の月に薪たきぎを取り込んで

あちらこちらに窓あける音

とでもいったような趣がある。

「イズンティット・ロマンティク」の歌の連続が次のような順序に現われる。始めはモーリスが店の三枚鏡の一枚一枚に映りながらこれを歌う。この歌が街頭へ飛び出して自動車のおやじから乗客の作曲家に伝染し、この男が汽車へ乗ったおかげで同乗の兵隊に乗り移る。兵隊が行軍している途中からこの歌の魂がピーター・パンの幽霊のような姿に移つて横にけし飛んだと思うと、やがて流浪の民の夜営のたき火のかたわらにかなでられるヴァイオリン

の弦のしらべに変わる。この音の流れて行く末にシャトーのバルコニーが現われて夢見るような姫君のやるせない歌の中にこの同じ主題が繰り返さる。そして最後のリフレーンで「イズンティット・ロマーン」まで歌つた最後の「ティック」の代わりに、バルコンの下から忍びよるド・サヴィニヤク伯爵の梯子はしごが石欄に触れる「ティック」の音を置き換えてある。ばかげているようであるが、この音で夢の世界から現実の世界へ観客を呼び返す役目をつとめさせているのである。

公爵のシャトーの中のかび臭い陰気な雰囲氣ふんいきを描くためにいろいろな道具が使われているうちに、姫君の伯母三人のオールドミスが姫君の病氣へいきゅう平癒へいゆを祈る場面がある。それが巫女みこの魔法を修す

る光景に形どつて映写されているようであるが、こここの伴奏がこれにふさわしい淒惨の氣を帶びているように思う。哀れな姫君の寝姿がピアニシモで消えると同時に、グワーツとスフォルザンドーで朗らかなパリの騒音を暗示する音楽が大波のようにわき上がり、スクリーンにはパリの町の全景が映出される。こここの気分の急角度の転換もよくできている。

モーリスがシャトリーの玄関をはいってから、人けのない広間をうろつきまた駆け回る場面の伴奏も抑揚変化が割合によくできていて人を飽きさせない。

医者が姫君を診察するとき、心臓の鼓動をかたどるチンパニの音、脈搏を擬する弦楽器のピッチカットもそんなにわざとら

しくない。

モーリスの出現によつて陰気なシャトーの空氣の中に急に一道の明るい光のさし込むのを象徴するよう、「ミミーの歌」の一連の連續が 插入そうにゅうされてインターリュードの形をなしている。むつかしやの 苦虫にがむしの公爵が寝床の中でこの歌を始める。これがヴァレンティーヌ夫人、ド・ヴァレーズ伯爵、ド・サヴィニヤク伯爵へと伝播でんぱする。最後の伯爵のガス排出の音からふざけ半分のホルンの一声が呼び出され、このラツパが鹿狩りのラツパに転換して爽快そうかいな狩り場のシーンに推移するのである。あばれ馬のあはれ方は愉快であるが、鹿の走り方は少しおかしい。あれは追わるる鹿ではない。モーリスが馬と「話し合いで別れて」鹿と友だ

ちになつて いるところは傑作である。「静かにお帰りください」で引き上げる狩人かりうどたちのスローモーションは少し薬がきき過ぎた形である。

舞踊会の「アパツシユの歌」とその画面は自分にはあまりおもしろくなかった。何かが一つ足りないような気がする。どこかに無理があるであろう。

仕立て屋だということがわかつてからの「ナツシンバツタテーラ」の繰り返しもわりにおもしろくできている。家扶家徒、部屋へや^づ付き女中、料理人、せんたく女と順々にこれが伝わつて行つて、最後にはいよいよ引き上げて行くモーリスに、執念しゆうねく追い迫るスキヤンダルの悪魔のささやきのようなささやき声の「ナツシン

「バツタテーラ」が繰り返される。これはかなり印象的である。これを聞いて帰宅して晩に寝ようとすると、枕もとの時計の音が「カツチン、コツチン、カツチン、コツチン、ナツシン・バツタテーラ」というふうに聞こえたくらいである。

最後の汽車と騎馬との追つ駆けは、無音映画としてはあまりに陳套な趣向であるが、しかしあの機関車の音と画像と、馬のひづめの音と足搔きの絵との加速度的なフラツシュ・バツクにはやはりちよつとすぐにはまねのできない呼吸のうまみがあるようである。

この映画は一面にはこうした音楽的な構成においていろいろな試みをしている。この点においてこの映画の創作者ルーバン・マ

ムーリアンは一つの道楽をしてひとりで悦に入つてゐる感がある。しかしながら一面においては常設館の常顧客であるところの大衆の期待に応ずるような手ごろの材料をかなりに盛りだくさんになんばいすることに骨を折つたようである。たとえばド・ヴァアレーズ伯爵がけしからぬ犯行の現場から下着のままで街頭に飛び出し、おりから通りかかったマラソン競走の中に紛れ込み、店先の値段札を胸におつつけて選手の番号に擬するような、卑猥ひわいであくどい茶番はヤンキー王国の顧客にはぜひとも必要なものであろう。また後庭林中の夜のラヴシーンはシユヴアリエ・マクドナルドの贊美者たる若きファンのための独参湯どくじんとうとしてやはり欠くべからざる一要件であろう。それからまた鹿狩しかがりの場に現われた貴族的な

スポーツ風景は国粹主義の紳士淑女を喜ばすものであり、シャトーにおける生活の空虚と痴愚を露骨に風刺する多数の画面は卑近な民衆イデオロギーに迎合するものであろう。その中で比較的成効しているのは、サヴィニヤク伯爵が恋敵のモーリスの化けの皮を引きはぐつもりで鹿狩りを割愛し、半日がかりで貴族系譜の数十巻をしらみつぶしに調べ上げ、やつと目的を達したと思うと、ド・ヴァアレーズのでたらめを鶉のみにする公爵のあほうのために苦心が水の泡になり、そのいまいましさを片手の鷺ペンといつしょに前方に突き出す瞬間の皮肉な心理描写であろう。

三人の伯母たちが何かというとぎようぎようしく階段や廊下を駆け回る。その時のおぎょうな甲高い叫び声が狩り場の群犬の

ほえ声にそつくりであるのは故意の寓意ぐういか暗合かよくわからない。この三人が、姫君のためにはハッピーエンド、彼らの目には悲劇であるかもしれない全編の終局の後に、短いエピローグとして現われ、この劇の当初からかかっていた刺繡しじゅうのおとぎ話の騎士の絵のできあがつたのを広げてそうして魔女のような老嬢の笑いを笑う。運命の魔女が織り成す夢幻劇の最後の幕の閉じる幔幕まんまくとしてこの刺繡の壁掛けを垂下したつもりであるかもしれない。

このようにいろいろな味のちがつたものを多数に全編の中に取り入れて、趣味のちがつた多数の観客の享楽に適するようにしようとすれば、どうしても多少の無理が起こりやすい。それをこのくらいにまでまとめ上げるのはやはり凡手ではできないであろう。

それにしてもクレールの「パリの屋根の下」や「自由をわれらに」のようなものに比べると、どうしても少しごたごたした感じのするものはやむを得ない。

しかしこの映画はまたまさにそういう点から見て、未来の音映画の進化の径路を暗示するものと思われる。この映画の傾向を次第に発展させて行けば結局は日本固有の俳諧連句はいかいれんくを視覚化したようなものに近づいて行くであろうと思う。私は日本の一流の映画家、音楽家、俳人が力を合わせて、西洋人に先鞭せんべんをつけられないうちに、一日も早くオリジナルで芸術的でしかも大衆的におもしろい俳諧連句的映画の創作に着手する事を切望するものである。

(昭和七年十一月、キネマ旬報)

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦隨筆集 第二卷」小宮豊隆編、岩波文庫、岩波書店

1948（昭和23）年5月15日第1刷発行

1963（昭和38）年4月16日第20刷改版発行

1997（平成9）年9月5日第64刷発行

入力：(株)モモ

校正：かとうかおり

2003年6月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

音楽的映画としての「ラヴ・ミ・トウナイト」

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>